

# 公約進捗状況（概要版）

政策			令和6年度までの成果 (実績、取組内容)	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組
戦略	項目	公約			
戦略1 新しい産業で名張を元気に！	1	トップセールスで、「食と観光」を軸にした新たな観光産業をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤目四十八滝の観光入込客数の増加 ※コロナ以降最多の入り込み客数 ・R4:116,922人→R6:124,564人</li> <li>○地域力創造アドバイザーの活用による赤目滝水族館の開館</li> <li>○隣接市町村との連携による広域周遊ツアーなどの新たなコンテンツの造成</li> <li>○国外からの観光誘客に向けたトップセールス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の稼ぐ力を強化するための司令塔（DMO）づくり</li> <li>○赤目四十八滝を起点とした年間を通じた市内周遊の仕組みづくりによる更なる名張市への観光誘客</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで取り組んできた官民一体の協力体制を更に発展させるため、民間（DMO）が中心となり展開する観光経営戦略を支援します。</li> <li>○地域の稼ぐ力の強化に向けて、観光地の組み合わせ（市内周遊）、食と観光（オーガニック、食育）、中長期滞在（ワーケーション、二拠点居住）といった民間の取組を支援します。</li> </ul>
	2	2025年開催の大阪・関西万博に向け、地元へビジネス・チャンスを広げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張市産業活性化推進協議会（ナウダツ）設立による2025大阪・関西万博を見据えた官民一体となった取組の推進</li> <li>○大阪都市圏内の消費者に対する名張物産観光展～なばりE X P Oチャレンジ～に開催による観光誘客</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2025大阪・関西万博での出展による名張の地域資源の魅力発信</li> </ul>	
	3	名張市産業振興戦略を早期に作成し、地元中小・小規模企業の活性化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の各事業者支援機関10機関と中小企業等の持続的な発展及び地域経済の活性化を目的とした協定の締結</li> <li>○名張市事業承継人材マッチング支援協議会（フミダス）による事業者に対する事業承継、新事業展開の支援</li> <li>○ふるさと納税の寄附拡充に向けた取組推進 ・R4:約3億3,700万円→R6:約6億4,200万円（寄附額の増） ・R4:397品→R6:529品（返礼品数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○更なるふるさと納税の推進にため、公募型プロポーザルにより新たな支援業者を選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内関係機関と今後の名張市の産業振興について検討を行います。</li> <li>○地域の魅力発信のため、ふるさと納税による返礼品の充実、事業者との連携を深め、更なる寄附拡充に向けた取組を実施します。</li> </ul>
	4	伊賀米、伊賀牛、名張のお酒のブランド力を海外輸出も視野に高めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年連続10回目の特Aを獲得した伊賀米生産農家への支援</li> <li>○有機農業を推進するため、オーガニックビレッジ宣言、地域おこし協力隊を導入するなど関係機関との連携を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張・伊賀の環境負荷低減により生産される農産物を広域的にブランド化する取組を展開するため、伊賀市、JA、伊賀農林事務所とともに準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関との連携を深め、地域の生産者が抱える課題に対する支援を強化します。</li> <li>○有機農業をはじめ、環境負荷低減による生産の更なる事業展開の拡大を支援します。</li> </ul>
	5	6次産業化、スマート技術の活用、獣害対策の充実で地域農業を守ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域計画策定33地区</li> <li>○国の「食料産業・6次産業化交付金」を活用した加工施設、体験農場を併設した農家カフェ整備への事務的サポートを行うなど、6次産業化を支援</li> <li>○宇陀・名張地域鳥獣被害防止広域対策協議会において、地域の生産者を支援するため、獣害防止に向けた防護柵の整備延長を拡大 ・R4:183km→R6:197km</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域計画未策定の地域における策定（5地区程度）及び、策定済の地域計画のブラッシュアップ</li> <li>○獣害防止に向けた計画的な防護柵整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農地を次世代に引き継ぐため、地域の関係者が話し合い地域の農業の未来をまとめる地域計画のブラッシュアップを継続します。</li> <li>○安心して農作物を収穫できるよう生産者が取り組む獣害対策を支援します。</li> </ul>

# 公約進捗状況(概要版)

政策		令和6年度までの成果 (実績、取組内容)	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組	
戦略	項目				公約
<b>戦略2</b>  <b>新たなまちづくりで名張を元気に!</b>	6	市民参加とデータに基づくシティ・プロモーションで、新たなまちづくりに挑戦します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張市シティプロモーション戦略を策定し、市民参加型のワークショップによるブランドロゴの創出、専用サイトの立ち上げ、市民ライターによる魅力発信(まちの広報室)などを行い、シビックプライドを醸成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4:12.1%→R6:14.1%(「まちをよくするために活動したい」割合増)</li> </ul> </li> <li>○広報なばりのカラー化やなんとなかなるエピソードの掲載、市公式LINEを活用した広報eモニター制度の運用を開始し、市民に伝わる広報戦略を展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4:59.7%→R6:73.5%(「まちの活動している人に感謝したい」割合)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブランドロゴの浸透に向けたブランドロゴを活用したカードゲーム、P R動画、ポスター、案内所の制作</li> <li>○公民連携の取組により、ばりフェス実行委員会と連携してシティプロモーションを推進。市民が主役となってまちの魅力を発見・発信する機運醸成に向けて取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アウトタープロモーションの推進を含め、全世代の名張に関わる人が名張を語りたくなる、地域活動に参画したくなるよう、情報発信による関係人口の創出を活性化します。</li> <li>○ブランドロゴの更なる浸透に向けた取組を強化します。</li> </ul>
	7	学生と地域のまちづくりとのコラボを行い、地域課題の解決に挑みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張ゆめづくり協働塾を開催し、若者を含めた幅広い世代の市民が参加することにより、地域の活動人口を拡大</li> <li>○高校生や大学生などと連携した地域づくり組織が増加                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4:3地域→R6:5地域</li> </ul> </li> <li>○旧町のまちづくりを考える「やなせ起点プロジェクト」を設立し、学生、地域等が協働し、やなせ宿を中心にまちあかでのイベントを検討、実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京藝大を中心とする共創P Jの活動拠点「まちの図工室」がオープン。近代高専、三重大学、三重県立看護大学の学生の現地体験事業の実施</li> <li>○まちなかに張り巡らされた水路、ひやわいを活かしたマップづくりワークショップを開催</li> <li>○近代高専、まちの図工室と連携し旧町の建築文化財資源等を活かしたイベントの企画検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少、少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、関係機関と連携した持続可能なまちづくりに向けた取組を進めます。</li> <li>○まちづくりを支える中間支援組織の強化を支援します。</li> <li>○若者世代がまちづくりに参画したくなる情報発信を推進します。</li> <li>○都市構造再編集集中支援事業を活用し、登録文化財等のサイン整備、まちあるきマップの作成を実施します。</li> <li>○建築専攻と芸術専攻の学生と地域が協働するエリアイベントを実施します。</li> </ul>
	8	移住対策、空き家対策、テレワークやワーケーションを一体的に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市部での移住フェア、移住者と地域をつなぐ人づくり講座や移住体験ツアー、市内の空き家巡りツアー、オンラインでの移住相談会、オンライン同郷会を実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県内(主に伊賀市)、奈良県から転入超過</li> </ul> </li> <li>○空き家の活用促進に向けた名張市すまいの活用相談会の実施</li> <li>○交付金を活用し整備されたテレワーク施設の利用促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張商工会議所が設置する産学官で構成される人口減少対策特別委員会に市関係部局が参画</li> <li>○ふるさと納税を活用した空家等適正管理の実施</li> <li>○名張市空家等管理活用支援法人を指定</li> <li>○空き家の活用促進及び住宅確保要配慮者への住宅確保に向けた名張市すまいの活用&amp;生活にお困りの方の生活相談会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○移住者、空き家希望者の傾向分析を行い、ニーズにマッチした支援を展開します。</li> <li>○居住の目的以外についても空き家の利活用について関係団体等と連携を図ります。</li> <li>○移住・空き家・雇用が連携した支援体制の構築します。</li> </ul>
	9	文化、スポーツの振興と連動した豊かなまちづくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化・スポーツ関係団体との協力による市民参加型のイベントを開催                     <ul style="list-style-type: none"> <li>【R5】ペットボトルワークショップ及び点灯式、和文文化体験教室、藤堂家邸工芸作品展示会及び三味線体験会ほか</li> <li>【R6】第1回ひめみこ春まつり、藤堂家邸 落語&amp;三味線体験会、幻影猿 乱歩生誕100周年講演会ほか</li> </ul> </li> <li>○名張市の伝統文化継承に向けた能楽公演、狂言ワークショップの開催                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・観阿弥祭・能楽祭、子ども伝統芸能祭り</li> </ul> </li> <li>○特別天然記念物のオオサンショウウオをモチーフとしたキャラクターの造成、保護活用のためのクラウドファンディングの実施</li> <li>○ネーミングライツを拡充、「名張市武道交流館いきいき」など6施設</li> <li>○オリンピック選手をゲストに迎えたホッケー教室の開催、広報なばりでのホッケーのまちなばりの推進</li> <li>○令和5年11月に名張市が「公式ホッケータウン」として認定</li> <li>○パリオリンピック出場選手をゲストに迎えたホッケー教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化団体との連携事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回ひめみこ春まつり、ひめみこウォーククイズラリー、名張の美実行委員会 高校生を中心とした「名張の美」、和文文化体験実行委員会 和文文化体験教室、美術作品展「雅」実行委員会作品展</li> </ul> </li> <li>○三重の能楽まつりの開催による地域に根づく伝統文化の振興</li> <li>○日本オオサンショウウオの会名張大会の開催による清流のまちなばりの魅力発信(10/18-19日本オオサンショウウオの会名張大会(約1,000人))</li> <li>○第2次名張市スポーツ推進計画の策定(計画期間：R8~R17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化・スポーツ関係団体と更なる協力体制を強化します。</li> <li>名張ガラスアート実行委員会、名張の美実行委員会、アート展実行委員会、文化協会ほか関係団体との共催事業</li> <li>○文化振興条例の制定に向けて取り組みます。</li> <li>○全世代の市民が文化芸術を楽しみ、伝統文化を次世代につなぎます。</li> <li>名張能楽祭(子ども狂言35周年記念)、観阿弥祭ほか</li> <li>○公共施設全体の整備の方向性や広域化による施設の相互利用を見据え、持続可能な文化・スポーツ施設の在り方を検討します。</li> </ul>
	10	市民との協働によって、花や緑で豊かな景観をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美旗まちづくり協議会により新田水路やぜり田など、線路沿いの農地に咲き誇る花を楽しんでいただく環境を整備、電車からの車窓風景にも貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緑の券金交付事業によりパークアベニュー遊歩道、鴻之台3号公園等に、地域づくり組織による花の植栽や除草作業(花壇の整備)等の活動を実施</li> </ul>	
	11	名張川の河川改修に合わせて、道の駅や河川公園の整備を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張川の河川改修に合わせてまちの賑わい創出拠点整備の取組を推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4~R5「名張かわまちづくり空間デザイン」意見交換会開催</li> <li>・R6「名張かわまちづくり計画(変更)」登録(背後地を追加)</li> </ul> </li> <li>○「名張かわまちづくり基本方針策定委員会」設立                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興拠点利活用ワークショップ開催、市民・子育て世代ニーズ調査実施、観光協会へのヒアリング実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「名張かわまちづくり一体型浸水対策事業(1期)」によって新たに創出される河川親水空間と隣接する「かわまちエリア」の歴史等の地域資源との相乗効果により、名張川及び宇陀川の背後地を地域振興拠点エリアとして多くの来訪者が集うことが出来るよう整備を進めているところです。国の「都市構造再編集集中支援事業」を活用し、水辺とまちが融合した空間形成を推進する「名張かわまちづくり計画」に示す親水空間・背後地の「かわまちエリア」と「まちなかエリア」の整備を推進しています。</li> <li>・整備期間：R7~R11</li> <li>・整備計画の公表、地域振興拠点の用地買収、地域組織等への事業概要の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張川周辺に若者を中心とした多様な世代が集まる場所、賑わうことができる場所を創出します。</li> <li>○地域のニーズを踏まえた新たな公園の利活用を進めます。</li> <li>○都市構造再編集集中支援事業スケジュール(R7~R11)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・R8：地域振興拠点の測量設計等</li> <li>・R9：かわまちエリア整備</li> <li>・R10：かわまち・まちなか整備</li> <li>・R11：まちなか整備</li> </ul> </li> </ul>

## 公約進捗状況（概要版）

政策			令和6年度までの成果 (実績、取組内容)	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組
戦略	項目	公約			
<b>戦略3</b>  <b>確実な危機管理で名張を安全に！</b>	12	大規模災害や南海トラフ大地震に備え、公共事業や危機管理に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国と連携した浸水被害の軽減に向けた河川環境整備</li> <li>○市内小中学生が全員参加する防災訓練の実施により、持続可能な防災知識習得の支援</li> <li>○福祉避難所開設運営訓練の実施、市内ホテル事業者との災害協定など、多様化する避難者ニーズを踏まえ、地域、関係機関、市関係部局との連携強化による防災体制構築</li> <li>・ R4:76件→R6:88件（災害に関する協定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもが地域の一員として、防災意識を高めるために市内小中学生が全員参加する防災訓練を実施するとともに、地域の実態に応じた具体的な防災活動に参加する等、学習の充実を実施</li> <li>○国の交付金活用による簡易トイレ、簡易ベッドなど（事業費3,000万円）の防災備蓄品整備を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な防災力の強化に向けて、地域、関係機関、市関係部局との分野を超えた連携強化による市民主体の防災体制を整備します。</li> </ul>
	13	緊急輸送道路でもある国道368号の4車線化をさらに促進させます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三重県との協働により、国道368号の4車線化について、八幡工業団地までの一部区間の供用を開始</li> <li>○市内の道路整備が進み、移動しやすくなったと感じている市民の割合の増加</li> <li>・ R4:48.9%→R6:50.7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名阪国道への必要なアクセス道路である国道368号の4車線化を三重県と協働し整備促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国道368号に加え、東西の基幹道路である国道165号については、緊急輸送道路の側面を持ち合わせていることから、早期に事業効果が発現できるよう、整備区間の選定、整備手法について、三重県及び関係自治体と更なる検討を行います。</li> </ul>
	14	通学路の安全対策に早期に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○警察などの関係機関と連携した名張市通学路交通安全プログラムに基づく合同点検の実施</li> <li>○地域の担い手（生活安全推進協議会交通安全部会委員）による通学時の見守りの実施</li> <li>○交通・防犯団体等からの交通安全支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張市通学路交通安全プログラムに基づく合同点検の実施</li> <li>・ 市内小中学校について、プログラムに基づき、警察などの関係機関と連携しながら合同点検を実施しました。今年度の点検内容については3月に議会等への報告を行い、併せて公表を実施します。</li> <li>○生活安全推進協議会交通安全部会委員による通学時の見守りの実施</li> <li>○通学路交通安全指導研修会の開催</li> <li>○サイクルフェスタとの同時開催による交通安全フェスタの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心安全に暮らせるまちづくりのため、地域や警察などと連携した地域全体での見守り体制の強化を行うと共に、地域の高齢化が進む中、高齢者（歩行者）に対する交通安全の指導を強化します。</li> <li>○プログラムに基づき、継続的に合同点検を実施し、通学路の安全確保に努めます。</li> </ul>

# 公約進捗状況(概要版)

政策			令和6年度までの成果 (実績、取組内容)	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組
戦略	項目	公約			
戦略4 充実した医療・福祉・教育で名張を元気に！	15	コロナ対策と、地域経済の立て直しに全力を挙げて取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三重県や関係機関と連携し、新型コロナウイルスワクチン接種やPCR検査体制の整備を実施</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響により生活に苦しむ市民への給付金</li> <li>○プレミアム付商品券発行事業など経営に苦しむ事業者への支援</li> <li>○市内公共施設において、感染症を要望するための施設整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症を含む様々な感染症などに対し、三重県や関係機関と連携し取組を進めます。</li> </ul>
	16	さらなる医師、看護師確保と、伊賀管内医療機関の機能分担を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上野総合市民病院、岡波総合病院、名張市立病院の3病院の連携強化</li> <li>○今後も地域に必要な医療を持続的かつ安定的に提供できる体制の構築に向けて、経営形態の見直しを含め検討を重ねた結果、地方独立行政法人への移行が最適と判断し、市民説明会(3日間5か所)を開催し、法人への移行を決定した経緯や今後の法人化に向けた取組等を説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年10月に地方独立行政法人を設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の医療体制の整備について、引き続き関係機関と連携した取組を進めます。</li> <li>○独立行政法人の強みを生かした効率的な病院運営を進めると共に、法人独自の就業規則や手当を導入し、人材を確保に努めます。</li> </ul>
	17	市立病院への産科設置、子育て支援の充実で、女性が働きやすいまちにします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「名張版ネウボラ」の更なる充実に向け、妊娠から子育て期にわたり切れ目ない支援に取り組むと共に、母子保健機能と児童福祉機能の機能を併せ持つ「こども家庭センター」を設置し相談支援を実施</li> <li>○名張あんしん出産・子育て応援事業(妊婦にやさしい遠方出産支援事業、妊婦情報事前登録制度、産婦人科・小児科オンライン相談)を開始</li> <li>○放課後児童クラブの増設や夏季休業期間中の居場所の開設により、放課後や休日の子どもの見守り体制を強化(放課後子ども教室を8地域で開設)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産後ケア事業(デイサービス型)を開始</li> <li>○放課後や休日の子どもの見守り体制のひとつとして、放課後子ども教室を新たに4地域を加え、12地域で開設し、強化を図っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心して子どもを産み育てることができる環境の整備を進めます。</li> <li>○将来の妊娠を考え自分のライフプランに適した心身の健康管理のために、正しい知識や情報を提供するプレコンセプションケアの支援を行います。</li> <li>○母子健康手帳機能と子育て支援機能を組み合わせた子育て支援アプリを導入することで、乳幼児健診の記録、予防接種のスケジュールの自動調整、プッシュ型の通知及び子育て情報の掲載により、丁寧な子育て支援及び利便性向上を図ります。</li> <li>○放課後子ども教室を新たに2地域開設、14地域で子どもの居場所づくりの強化を図ります。</li> </ul>
	18	保育士や介護士をはじめ、福祉・介護の人材確保を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なほり保育士・幼稚園教諭就職フェアの開催等により、保育人材を確保</li> <li>○市内事業者等(20事業者)と締結している地域の見守り活動に関する協定において、実務担当者会議を開催し、見守り支援の連携状況や、各事業者が現場で感じている課題を共有し、見守り活動連携を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防の取組として、地域の民間事業者の提案による新しい介護予防の取組を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民間事業者との連携による介護予防、重症化予防の取組を推進します。</li> <li>○地域づくり組織の体制と連携した持続可能な地域福祉の取組を進めます。</li> <li>○民間事業者との連携、介護予防事業との連携による見守りネットワークを強化します。</li> </ul>
	19	高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張市の交通施策の課題について、関係機関と連携し、他自治体の事例、国、県等の補助金の有効活用などを共有しながら、より良い公共交通の環境整備を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通空白地の解消を目的に、モデル地域において、マイカーを活用した公共ライドシェアの実証実験を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域で安心して暮らせる公共交通の実現に向けて、引き続き、関係機関、関係部局と連携し、人材育成も含めた持続可能な公共交通システムの再編を行います。</li> </ul>
	20	農福連携やICTの活用で、障がい者雇用をさらに進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相談支援体制の充実・強化、地域生活への移行の促進、一般就労への移行支援の強化等、必要なサービス提供体制の整備に向けた取組を推進</li> <li>○一般就労につながった障害者数【延べ人数】の増加・R4:12人→R6:24人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名張市障害者福祉計画等に基づき、障害者が生活する上で複雑化、多様化する課題やニーズに対し、関係機関と連携しながら支援の充実を図る。</li> <li>○すべての障害者が本人の意思に基づき自身の能力を最大限発揮し自己実現できるよう支援者のスキルアップを図るなど、今後も障害者の意思決定支援等を現実のものとする取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複雑化する多様なニーズに対応するため、相談員の個々のスキルアップや、関係機関との横断的な連携がより一層深め、障害者理解の促進や共生社会に向けた様々な取組を行います。</li> <li>○障害者、ひきこもりなどの様々な人が生きがいを持って社会参加ができる仕組みとして、農福連携の取組の推進を行います。</li> </ul>
	21	中学校給食の導入を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校給食については、名張市中学校給食実施に係る基本計画を策定し、令和5年度には、青蓮寺市内でのPFI手法(BTO方式)を用いたセンター方式を採用するなど導入を推進</li> <li>○令和6年度には、事業を実施するための選定委員会の立ち上げ(開催3回)、公募開始に係る要求水準書案、実施方針を作成・公表し、事業者説明会、質疑の募集と回答の公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和9年度中の中学校給食の実施に向け、事業者選定に係る準備を進めていたが、財政状況に課題が大きいことから、当面の間延延することとした。</li> <li>○実施に向けて、様々な手法について、調査・検討を進め、今年度中に一定の方針等を示す予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度に示す方針等に基づいた取組を行う。</li> </ul>
	22	教育環境(施設整備、人的配置)を整え、子どもたちの学びと育ちを支えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園、保育所(園)、認定こども園に元小学校教員であるピカ1先生と幼児教育アドバイザーが巡回することにより、しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラムに基づいた保育を実施</li> <li>○全中学校区において、義務教育9年間の系統性・連続性のある指導を行うため、名張市小中一貫教育推進方針を策定し、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進</li> <li>○安全安心な教育環境の実現のため、市内小中学校の全てのトイレで洋式化整備を完了するなど、施設整備を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校への円滑な接続のために、市内の保育所(園)及び認定こども園、幼稚園に、元小学校教員のピカ1先生と幼児教育アドバイザーが巡回し、就学前の児童に、「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づき、小学校への接続を意識した内容の保育活動を実施</li> <li>○コミュニティ・スクールを基盤とした、義務教育9年間の系統性・連続性のある小中一貫した指導を全中学校区で推進</li> <li>○学校生活支援ボランティア研修交流会を行い、学校生活支援ボランティアの実践力向上とボランティア相互の情報交流を図り、コミュニティ・スクールの更なる推進・充実の実施</li> <li>○また、地域と学校が協働することができるよう、地域学校協働活動推進委員の委嘱を一部の学校で実施</li> <li>○名張中学校、赤目中学校及び南中学校のエレベーター整備工事の実施</li> <li>○錦生赤目小学校屋内運動場大規模改修工事の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域のニーズを学校教育に反映しながら、家庭、地域と共に地域の将来を担う人材として「夢を実現する力」「社会を拓く力」を育てていくため、構想を共有し、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的な取組の推進します。</li> <li>○人口減少による児童生徒数の減少に伴い、子どもたちの未来を見据えた学習環境の充実のため、名張市立小中学校の規模・配置の適正化基本方針の策定を進めるとともに、基本方針を踏まえた取組を進めます。</li> </ul>

# 公約進捗状況（概要版）

政策		令和6年度までの成果 (実績、取組内容)	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組	
戦略	項目				
戦略5	確かな行財政運営で名張を元気に！	<p>23 ○さらなる事業の見直しや市立病院等の経営改善を図り、財政健全化を進めます。</p>	<p>○幅広い分野での更なる交流や連携を図るため、令和6年10月に伊賀市と「定住自立圏形成協定」を締結。 ○公有財産管理の一元化、公共施設の長寿命化・更新計画の体系的な推進に向け、令和6年4月に「公共施設マネジメント室」を新設。 ○市内WGの設置による行財政改革プランの策定（令和6年11月）、プランに基づく歳入確保・歳出抑制や業務効率化の取組推進など行財政基盤の強化に向けた集中的な取組を実施。R7当初予算へ約5.2億円の効果額を反映（ふるさと納税の拡大、20事業・9補助金の見直し、廃止等）。 ○市立病院「経営強化プラン」の策定に加え、地方独立行政法人化に向けた準備を開始。</p>	<p>○地域課題等解決に向けた連携プロジェクトの創出を目指し、令和7年4月に公民連携窓口を設置。 ○令和7年8月から窓口・電話対応時間を短縮（9:00～16:30）し、業務改善等の時間確保、時間外勤務抑制など職員の働き方改革を実施。 ○使用料・手数料改定を令和7年9月定例議会で議決し、令和8年4月施行に向けた周知等を実施。 ○市立病院を地方独立行政法人へ移行（令和7年10月～）し、経営の自律性・機動性を強化。 ○専門性を要する行政課題への対応や職員数の減少等を踏まえ、外部人材（集落支援員、地域活性化起業人など）の活用を推進。</p>	<p>○持続可能なまちづくりに向け、行財政改革プランに基づく歳入確保・歳出抑制の取組を継続実施。 ○限られた職員数でも効果的な行政サービスを提供できる組織体制の構築。 ○市立病院の経営改善と繰入金適正化の推進。</p>
		<p>24 ○市行政のDXを人材育成から進め、業務の効率化を目指します。</p>	<p>○名張市DX推進計画（令和5年4月）を策定し、全庁的なDXを推進。 ○業務改善、業務効率化を目指し、職層別DX研修の実施、自治体専用ビジネスチャットツール（LoGoチャット）やAI議事録の導入、生成AIやノーコードツール（kintone）の試行を実施。 ○市公式LINEのリニューアル、マイナンバーカードを利用した手続き申請受付の拡充。</p>	<p>○住民基本台帳、税、福祉関係等の基幹系システムの標準化、クラウド移行の推進。 ○電子入札システムの運用開始（※令和7年4月公告分から） ○生成AI、ノーコードツール（kintone）の本格導入。また、ノーコードツール（kintone）の効果的な活用に向け外部人材を活用。</p>	<p>○次期DX推進計画（令和9年度～）の策定、行政DXの深化。 ○RPA・AI-OCRの導入検討、業務効率化・生産性向上の推進。</p>
		<p>25 ○固定資産税の超過課税は、延長しません。</p>	<p>○固定資産税の超過課税（都市振興税）を令和5年度で終了。 ○新たな財源の確保ワーキンググループ（令和6年度）を市内に設置。市税による自主財源の確保、使用料・手数料の見直し、クラウドファンディングの積極的活用やネーミングライツ活用施設の拡充等の調査・検討を実施。</p>	<p>○行財政改革プランに基づく歳入確保・歳出抑制や業務効率化の取組推進など行財政基盤の強化に向けた集中的な取組を実施。</p>	<p>○行財政改革プランの取組を軸に、中長期の歳出抑制と歳入確保の継続的な取組、多角的な財源確保の検討を実施。 ○行財政運営の透明性の更なる向上と市民の皆さんへの説明の一層の充実。</p>